

ケーブルテレビのコミュニティチャンネルの事例：多摩テレビ

一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス（ACCS）理事長 太田 秀也

前号においては、「ケーブルテレビのコミュニティチャンネルの最近の状況」として、コミュニティチャンネルの全般的な整理を行ったが、今回は、個別のケーブルテレビ局のコミュニティチャンネルの番組内容や制作体制について取り上げることとし、本号では、株式会社多摩テレビ（略称：TTV）のコミュニティチャンネルについて紹介することとしたい。

1. 多摩テレビについて

多摩テレビ（代表取締役社長中村陽介氏、所在地東京都多摩市）は、1991年10月に設立され、多摩ニュータウン及びその隣接区域を事業エリアとする都市型ケーブルテレビ局である（役職員数47名）。事業としては、放送事業、通信事業（インターネット、電話サービス）、番組制作等を行っている。

放送事業としては、地上デジタル放送、ラジオAM・FM放送、BS放送、多チャンネルCS放送に加え、コミュニティチャンネルがある。



多摩テレビの皆さん（本社社屋前で）

左から渡邊技術部長、中村社長、川那子執行役員（制作担当）、小林制作部マネージャー（筆者撮影）

2. コミュニティチャンネルについて

(1) コミュニティチャンネルの番組内容

3で紹介する番組のほか、下記のような番組がある。

- ・「TTV-NOW」（地元のニュース、町の安全安心、イベント情報などの地域密着の情報番組）
- ・地元自治体（多摩市・稲城市）の広報番組
- ・「ぶらたま」（タレントが散歩しながら地域の魅力を紹介する番組）

- ・「元気になるレシピ」（地元在住の野菜ソムリエによる野菜を使った料理レシピの紹介番組）
- ・体操番組（健康ピラティス、生活筋力体操）
- ・TTVアーカイブス
- ・天気予報、ライブカメラ映像（3地点）
- ・ショッピング番組
- ・「まるっと全国！ケーブルテレビ」（他のケーブルテレビ局と共同制作した番組や、他の局が制作した番組を相互で放送する番組）

(2) コミュニティチャンネルの制作体制

担当は制作部で、（川那子執行役員を含み）9名体制である。ニュースなどは全身体制で作成しているが、その他各番組はそれぞれ担当が決まっているということである。



制作部のスタッフの皆さん

制作スタジオ

3. 個別の番組について

以下、いくつかの番組について、その内容、制作方法などについて、多摩テレビの制作担当部局に取材した内容も交えて、紹介することとしたい。

(1) 知の回廊

i) 概要

地元にある中央大学が周辺住民に同大学をよく知ってもらいたいという思いから、地元



（多摩テレビHPより抜粋）

ケーブルテレビ局と協力して始めた番組（2001年度～）。「映像と研究」、「映像と教育」、「映像とインターネットの融合」を意識し、番組が制作・提供されている。30分枠、概ね月1回の放送で、2025年12月までに168回の番組が放送されている。

ii) 制作方法等

中央大学の提供番組で、制作はJ:COMが行い、多摩テレビは番組枠を提供している。

iii) 番組内容

2025年度放送の番組タイトルは以下のようなものとなっており、様々な分野・テーマの番組が放送されている。

「スポーツを通じた地域社会の活性化」(12月)、「環境と社会～環境問題を解決する社会のあり方～」(11月)、「労働力不足を克服するための研究～労働市場の未来推計2035～」(10月)、「自然界からの宝探し～海洋天然物化学～」(9月)、「通信教育とこれからの学びのかたち」(8月)、「乳児の視覚世界」(7月)、「国際協働で自己・他者・ことばを発見する」(6月)、「未来の共生社会を築く「異文化マネジメント」」(5月)、「持続可能な未来の都市をデザイン 都市緑化技術の最前線」(4月)。

このうち、9月放送の第166回「自然界からの宝探し～海洋天然物化学～」では、自然界の生物から未知の天然物を発見し、その構造と価値を明らかにし、創薬等につなげる研究が紹介されている(これまで発見されたものとしては、放線菌から発見されたストレプトマイシンが結核の特効薬として利用されている有名な例が紹介され、専門的な番組への興味を引く工夫がされている)。番組内では、新たな研究方法、例えば、天然物の効果的な採取方法として船舶会社の協力を得て船に付着した天然物を活用することとしていることや、結晶スポンジ法といった画期的な構造解析法を利用することで、微量天然物の構造解析を短時間で行うことが可能になったことが紹介されている。

(2) 探検カンパニー

i) 概要

エリア内にある“知られざる企業”を紹介する番組(2023年～)。各企業の事業の内容や特徴を、経営トップのインタビューなども交えて紹介している。15分枠、月1回更新で、2025年12月までに33回の番組が放送されている。なお、2024年5月に、番組の取組が地域経済の振興及び商工会議所の発展に貢献したベストアクションとして、関東商工会議所連合会から表彰されている。

ii) 制作方法

多摩商工会議所、稲城市商工会の提供番組で、多摩テレビが制作している(担当3名)。制作費の一部費用が、商工会議所等によりスポンサーとして提供されている。

iii) 番組内容

最近の放送では、産業機器のメンテナンス企業、消防設備の点検・工事企業、ハンドドライヤーを開発・販売する機器メーカー、音響機器メーカー、レーザー発振装置の開発企業、マンションの大規模修繕工事を行う企業や、紹興酒の輸入販売企業、乳製品の宅配企業、いちご狩りが楽しめる観光農園、学習塾、バレエダンス教室、書店、カフェ、洋菓子店など、様々な企業が紹介されている。

(3) スクール通信

i) 概要

エリア内にある保育園・児童館から小中高校、大学・専門学校まで、様々な学校の活動を紹介する番組(1993年～)。学校を訪問し、授業風景や課外活動の内容等を紹介している。15分枠、週1回更新で、2025年12月までに1628回の番組が放送されている長寿番組である。

ii) 制作方法

制作会社に外注して制作しており、制作会社が取材先調整・取材・編集を行い、多摩テレビが内容確認等を行っている(担当2名)。

iii) 番組内容

最近の放送では、児童館での里山散策、クリスマス会やハロウィン会、サツマイモ収穫・芋煮会、小学校の地層学習授業、中学生の多摩テレビ職場体験風景、美術大学でのギャラリートークなど、様々な活動内容が紹介されている。

4. 若干のコメント

「知の回廊」は、地域の大学の研究に焦点をあてて地域情報を発信する番組となっており、番組構成も、社会に役立つ研究開発(知)について知ることができるように工夫され、また最新の専門的研究内容を盛り込むことにより知的好奇心も満たしてくれる番組となっていると感じた。

「探検カンパニー」は、地域の方も知らないような地元企業を紹介することで、地域住民が地域の再発見をしたり地域に愛着を深めたりすることに役立つとともに、「ロコテレ」で地域外へも情報発信することで、地域外の方にも地域への関心をもっていただくことにつながる番組となっている。

「スクール通信」は、子供を含み地域の学生のいきいきとした姿を伝える番組であるが、個人情報・肖像権等の関係で取材が難しいなか、取材先との綿密な事前確認に加え、長年担当している制作会社と取材先の信頼関係もあり、地域に親しまれる長寿番組となっている。

※本稿の内容は、筆者個人の見解であり、筆者の属する組織としての見解ではないことを申し添える。